

H27年度 中間評価・実行可能性調査（FS）評価（案）一覧表

【ソフト分野・中間評価】

(H26採択・2年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H27委託額 (千円)	中間評価 (案)*
26-1	1	Ⅲ	研究名	名古屋大学 教授 山本 俊行	10,000	B
			概要			
26-2	特	Ⅳ	研究名	東京大学 教授 大口 敬	22,000	A
			概要			
26-3	特	Ⅳ	研究名	一橋大学 教授 根本 敏則	22,000	A
			概要			

※中間評価：研究継続の妥当性評価

A: 現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B: 現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C: 研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D: 中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

【ソフト分野・実行可能性調査（FS）評価】

(H27採択)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H27委託額 (千円)	FS評価 (案)*
27-1	2	Ⅱ	研究名	金沢大学 教授 中山 晶一郎	8,000	B
			概要			
27-2	3	Ⅱ	研究名	山梨大学 大学院 教授 佐々木 邦明	5,944	A
			概要			

※FS評価：研究継続の妥当性評価

A: 新規研究として採択	実現性は十分であると評価する。よって、次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
B: 新規研究として採択 (指摘事項有り)	実現性はあると評価するが、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
D: 不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

【ハード分野・中間評価】

(H25採択・3年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H27委託額 (千円)	中間評価 (案)※
25-5	8	II	研究名	繊維シートや鋼板によって補強されたRC部材の再劣化に対する健全度評価法の開発	東北大学 教授 鈴木 基行	16,000	A
			概要	経年劣化した道路橋は、補修・補強されて供用が続けられている。本研究は、繊維シートや鋼板補強によって表面が覆われ、再劣化による変状が目視確認できない桁や床版などのRC部材に対して、非破壊検査法と健全度評価法を開発する。			

(H26採択・2年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H27委託額 (千円)	中間評価 (案)※
26-4	8	II	研究名	表面処理技術を応用した腐食鋼桁端部の性能回復技術に関する研究開発	琉球大学 准教授 下里 哲弘	9,500	A
			概要	本研究では特殊な表面処理技術を応用して、腐食面のプラスト処理、亜鉛粉末を付着した犠牲防食化および腐食凹凸面の平滑化を図り、腐食鋼桁端部に対する効果的かつ高耐久性を有する性能回復技術の提案を目的とする。			
26-5	8	II	研究名	高性能鋳鉄床版の開発	九州工業大学 教授 山口 栄輝	35,000	B
			概要	床版に適する高性能鋳鉄の一体成形性と自由形状性を活かした応力集中緩和と溶接レスの実現により、疲労性能の高い安価な床版を開発する。既存RC床版を軽量化鋳鉄床版に置き換えることにより、既存橋梁の長寿命化及び耐震性の向上を実現するとともに道路幅の可能性を高める。			

※中間評価：研究継続の妥当性評価

A: 現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B: 現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C: 研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D: 中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

(H27採択・1年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H27委託額 (千円)	中間評価 (案)※
27-3	4	II	研究名	沢埋め道路盛土の経済的な耐震診断と耐震補強の開発	神戸大学 大学院 教授 澁谷 啓	9,980	B
			概要	沢埋めの古い道路盛土における災害が依然として多く、また、それらが被災した場合の影響は非常に大きく復旧にも多大な時間を要することになる。本委託研究は、このような被災事例が多い沢埋めの道路盛土を対象に、物理探査と簡易なサウンディングの組合せによる合理的な耐震診断法と、土のう構造体を用いたのり先補強による経済的な耐震補強工を開発するものである。			

【ハード分野・実行可能性調査(FS)評価】

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H27委託額 (千円)	FS評価 (案)※
27-4	8	II	研究名	薄板モルタルとデータ同化手法を利用したコンクリート橋の3次元塩分浸透予測手法の開発	新潟大学 教授 佐伯 竜彦	7,770	B
			概要	本研究は、飛来塩分環境下にあるコンクリート橋への塩分浸透状況を3次元的に把握するシステムを構築することを目的とする。このために、以下の要素技術を開発し、それを組み合わせる。 (1)薄板供試体とデータ同化手法を用いて、飛来塩分量解析の境界条件を同定する手法 (2)(1)を利用し、橋梁全表面における飛来塩分付着量、即ち、コンクリート中への塩分浸透解析の境界条件となる表面塩分濃度を求める手法 (3)環境条件の影響を考慮した不飽和コンクリートへの塩分浸透予測手法 (4)薄板供試体の効率的な製造・貼付け・回収方法			

※FS評価：研究継続の妥当性評価

A: 新規研究として採択	実現性は十分であると評価する。よって、次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
B: 新規研究として採択 (指摘事項有り)	実現性はあると評価するが、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
D: 不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。